

2024～2025年度 小倉中央ロータリークラブ週報

第1358回 例会

11月25日(月)

本日の卓話 「北九州市及び北九州エリアの空き家対策や商店街の復活など」

北九州未来づくりラボ 理事長 宮地 弘行 氏



例会日 月曜日 12:30～13:30
 例会場 リーガロイヤルホテル小倉
 事務所 小倉北区堺町1-2-16-3F
 TEL 093-531-4015
 FAX 093-531-1022

会長の時間 (11月18日 1357回 例会記録)

河野会長

出席報告 11月18日

本日は、わが社の事業の一つ、カラオケについてお話ししたいと思います。

30年前にオープンしたカラオケカーニバルも実は元は映画館のビルでした。映画産業が斜陽になるにつれ、街の映画館も一館一館と減っていく中、父がどこから仕入れてきたのか、これからはビジネスホテルの時代だ、と言うことで街の小さな映画館は昭和46年に、31部屋の小さなビジネスホテルに生まれ変わりました。

そのホテルも25年が過ぎ、お風呂やトイレなど傷みが目立ってきました。ビジネスホテルの部屋数は最低でも100部屋は欲しいという時代、改装を行っても31部屋では元は取れず、さあ、お金をかけて大規模修繕をするかどうか考えているとき、ある人に、ビジネスホテルは一日に1回転、ファッションホテルは2回転、カラオケは3回転と、土地代の高い所は不動産を有効に使う考えが必要だと、そんなことを教示されました。先日亡くなられた村口会員のアドバイスですが、その頃の彼は中屋敷で活躍するバリバリの営業マン。ホテルは防音設備もしっかりしていましたので、村口さんのアドバイスを受け、まだまだカラオケ産業が好調の時代、父から、お前に任せると言われ、今度はホテルからカラオケに事業転換です。

業界としては後発でしたので何か他店との差別化を図らないといけない。しかも5階建てのビルなのであまり効率がよくありません。無い知恵を絞って、5階建てを逆手に取って、あることを考えました。2階で受付を済ませ、フロント前のエレベーターに乗られたお客様をスタッフが「ごゆっくりどうぞ」とお見送りします。スタッフはその足で5階まで階段をダッシュ。お客様が乗られたエレベーターの扉が5階で開いたらそこには2階で見送ってくれたはずのスタッフがいるではありませんか。お客様の驚いた顔を見ながら、そのままお部屋までご案内します。結構、評判になり、当時店長でした私も率先して行っていました、いい運動になり半年で体重が5キロ落ちました。しかしアルバイトがどんどん辞めていきます。企画としては面白かったのですが、皆の体力が続きませんでした。また、チラシを作って企業回りもしました。今の店長と一緒に市庁舎の15階から地下の食堂まで、昼休みに保険の勧誘員と争うように、職員のテーブルにチラシを置いて回ります。総務課のフロアで誰に断って入ったのかと叱られたこともありましたが、あの頃は打てば響く、いい時代でした。

業界としては、コロナ禍以降、お客様の飲み方が変わったのか、少人数のお客様は戻ってきましたが、法人を中心に大人数での飲み会がめっきり減ってきました。また、デフレ経済から脱却できず相変わらず値引き合戦を繰り返しています。他店と差別化する豪華な部屋を作ってもなかなか付加価値がお客様に伝わりづらく、ない知恵を絞っています。そんなお店も今年で30年、企業の寿命30年説を聞きますが、ここが性根(しょうね)の入れ処、時代に合ったニーズを求めて、もうひと踏ん張り、頑張りしたいと思います。

ちなみに小倉北区で60部屋あるカラオケのビルがそのまま、今度はカラオケからビジネスホテルに業態変更、何が起るかわからない世の中です。

在籍会員数	43名
義務出席者	41名
ゲスト	1名
ビジター	0名
本日出席数	30名
本日出席率	73.17%
前々回修正出席率	95.34%

次回(12月7日)は、

地区危機管理委員会
 委員長 豊瀬 敦氏

11月のお誕生日

2日 長山 洋子会員
 7日 古川 裕宣会員
 11日 原田 緑会員
 19日 野口 晃会員
 29日 石崎 弘義会員

今月の主な予定

2日(土) RLI 卒後コース研修会
 6日(水) 二水会
 10日(日) 児童養護施設 芸能祭り
 11日(月) 定例理事会

四つのテスト ～ 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

幹事報告

北垣幹事

・本日は、特にありません。

卓話の時間

『オカリナの調べで迎える清張さんの人と作品～
《人生100年時代》生涯現役でポジティブな清張さん
の生きざま等に学ぶ～』

松本清張記念館 館長 古賀 厚志氏



- 小倉生まれ（1909（明治42）年12月21日）福岡県企救郡板櫃村大字崎（現・小倉北区）
- 15歳（大正13年）小倉市立板櫃常小学校高等科（現・清水小学校）を卒業。川北電気小倉出張所で給仕（雑用担当）として働き始める。この頃から文芸書に親しむ。

文学への目覚め

- 19歳（昭和3年）休職。「手に職を」という母の勧めに従い、「画工見習募集」の貼紙を見て小倉
- 20歳（昭和4年）で最大の印刷所「高崎印刷所」に頼み込み、石版印刷の見習離人として就職。文学仲間がプロレタリア文芸雑誌「戦旗」などを購読していたため、アカ狩りの小倉署に検挙され十数日間留置された。父からは蔵書をことごとく焼かれ、読書も禁じられた。小説を“書く”ということは、全く考えなくなってしまった。 **小説の執筆を封印**
- 27歳（昭和11年）佐賀県人・内田健次郎氏の五女「ナヲ」と結婚。
- 28歳（昭和12年）高崎印刷所を退職し自営となる。10月、門司から小倉に新築移転してきた大阪朝日新聞九州支社の広告部意匠係臨時嘱託として広告版下を書くようになる。
- 30歳（昭和14年）大阪朝日新聞九州支社広告部嘱託となる。

- 34歳（昭和18年）朝日新聞西部本社の正社員となる。正社員となった朝日新聞社では、記者ではなく、広告のイラストレーターとして活躍。
- 35歳（昭和19年）敗戦までの1年間、朝鮮で衛生兵として従軍。復員後、朝日新聞社に復職。一時期、箒の仲買のバイトで広島・大阪・京都・滋賀等各地へ売り歩く。
- 41歳（昭和25年）8人家族の生活を支えるため、賞金目当てで応募した「西構札」が3等入選！
小説の執筆を本格的に始める（文豪の目覚め！）
- 44歳（昭和28年）直木賞候補作品の「或る「小倉日記」伝」で「芥川賞」を受賞！希望して東京本社に転勤し、翌年家族を呼び寄せる。
- 47歳（昭和31年）朝日新聞東京本社を退社し、創作活動に専念。
- 55歳（昭和39年）（海外渡航自由化）初めての海外。81歳まで精力的に海外取材旅行（25日20ヶ国）
- 82歳、ご逝去（1992（平成4年8月4日）<この年の男性平均寿命は76歳>

◎自他ともに認める並外れた努力による読響や独学・独習で、幅広くかつ深く学ぶ！（給仕時代からは、内外の文芸書を濫読。印刷所時代からは、主にデザインや絵、書、俳句など。朝日新聞社時代からは、主に英語・英会話、古代史、民俗学、カメラなど。）・・・教養は欧米流の「ベラル・アーツ」並みの広さ！

◎生涯変わらぬ「幅広く旺盛な好奇心と飽くなき探求心」・「執念ともいえる知能への欲求」・「驚異的な挑戦意欲」・「天才的な努力」・「後ろを振り返らないポジティブな生き方」・「線密で精力的な調査」・「人間への深い洞察」・「ほとぼしる人間愛」・「弱い立場や庶民の味方」・「命果てるまで挑戦し続ける生涯現役の人」・「あらゆる規範をこえた作家」。晩年でさえ『時間がない。書きたいことがたくさんある。』が口ぐせ。55歳の時に海外渡航が自由化されてからはほぼ毎年海外取材旅行（25回20か国・最後は81歳の時の英国・ドイツ）徹底したリアリストの眼で人間性と社会の暗部を凝視した現代小説。権力構造やその不条理にまで踏み込んだ歴史・時代小説。日常性と動機を重視し社会性も取り入れた新しい推理小説。新線な視覚と独自の史眼で、日本の古代史研究に刺を与え続けた、「古代史疑」（昭和41～42年）に始まる古代史研究。時代の真実に「生活者の視点」から迫り、現代も昭和史研究

に大きく寄与する、現代史の画期的な著作「昭和史発掘」
(昭和39年～46年)など。

◎ <実績> 作品数は約1,000編、著作は約750冊(没後30年を経てもなお人気は衰えず、増刷は現在も続いている)、原稿用紙(換算)で約12万枚、映画化36作品・テレビドラマ化500本以上(今でも続くドラマ化や頻繁な再放送)、外国での翻訳・出版約200点、作家部門の長者番付(国税庁)で52歳(昭和35年)の時にはじめて全国第1位を獲得し、その後30年間の生涯で計12回、全国第1位を獲得!



ニコニコ献金報告

累計 239,000円

河野・北垣会員—古賀様、本日の卓話、楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

樋上会員—古賀様。今日はようこそ。よろしくお願いいたします。

湯口会員—少し良いことがありましたので。

江口会員—先週の卓話ありがとうございました。これから宜しくお願いします。

友田会員—16日、17日に出雲大社に行ってきました。この時期は、出雲大社では神在月(かみありづき)といって、日本中の八百万の神(やおよろず)が集まる祭りがあり、大変感動しましたのでニコニコします。

溝尻会員—昨日、長男から結婚しますと連絡があり、来年9月に式をするようになりました。良い妻を見つけて一安心しました。

大西会員—先日、孫3人と子供たちが我が家にそろいました。しかし、孫が風邪をひき、私にうつり、39度の熱が出ました。くやしいのでニコニコします。

森本会員—申し訳ございません。早退させていただきます。雪の秋田へ行ってきます。

鍋島会員—本日所用によりお休みします。野村さん、いつも助けてくださってありがとうございます。

合計 21,000円

祝お誕生日祝い — 原田 緑会員

